

中村俊定文庫
文庫 18
36
2



俳諧翁之帳題目録

夏部

更衣	新樹	餘花	牡丹	芍薬	杜若
一八	牡丹	芍薬	芍薬	芍薬	芍薬
石楠花	卯花	葵	葵	葵	葵
毬花	紫陽花	橘	橘	橘	橘
郭公	螢	蚊	蚊	蚊	蚊
席子	鮎	梅子	梅子	梅子	梅子
		石竹	水鶏	柑子	柿

常友	百合草	鳳仙花	鉄緑花
芥子花	元穂草	菖蒲	五月梅
梅友	早苗	若竹	春梅
楊梅	桃實	栗切	柘極
梔子	交草	厚排	夏盆子
美人草	夕影	麻	帷子
瓜 <small>竹茄子 小角豆</small>	蓮	沙室	祇園舎
玄月	蟬	夕立	扇



誦請教句帳

友部

更衣

位より女子御のあふ更衣外 親を
いほのまに友はきぬの衣久 衣徳

或寺あり

ぬきくく先友衣きけさか 幸和
毛短よりほらもあや衣久 徳元

ぬきうきよひしうらまぬ夜人 貞徳

新樹

きのしんやきふゆくんぬら友木立
きよきうへ又思よらうらまぬか 親
友山乃木ぬらをむむら子道か 道
こぼくうらまぬいふうと極 徳元
木乃よせよかーぬぬの友木立 月

じうぬとよよかうら友木立 日
山娘乃守刀り友こぬら 徳音
友ほや実縁ら若れ花うら 貞徳
友ひけてうらまぬとほや若れむ 長吉
友山乃道やうらすら若れ 正徳
うら治あう

二二三

搦く後出さう茶えんたあけぬ 親直

餘花

卯月の卯月の花乃敵ふ永治

卯月一日賀茂あそく

こゝぬきのあそくせん花 永治
尺八

杜の

おとせーと花乃さるや杜の

破出せ思ふ苗花をかきつるよ可

我とあよすきうん 繪も杜の 親を
繪師もいふひいいうかきつる 良徳
あう尺としてやぬーあむふかよむ 惟貞
尺さくやあろたよあむふかよむ 正徳
尺さくや行乃用るものあきつるをれ
あそくあそくあそくあそくあそく
あそくあそくあそくあそくあそく
よま中に入へての尺さくや杜の 苗

くまきり花をぬむむむ牡丹の 宗
海つらみ水もほしうかよもな 光政
花とけの骨もやあまらるる 松吉
か入りたよあまらるる 定門
あはれはるる行はるる
糸釣もこころのせむらうらうら 一村

一八

すりても名やいららつた花乃を
子鏡あまると先二のの花燈か 正徳

牡丹

正徳よ今とまありやかひま 正徳
牡丹はよゆかを返さるる
祢はまも牡丹乃乃の道理か 意礼
連あせは只牡丹むはらうるな 同

名ありおんくまげ月く牡丹花連元
志舞もせよ牡丹花尺酒日
月出い亥中一ふも尺よ次日茶
尺くもくありとふくおつて茶 利法
まきく尺とれて書や娘の茶 幸和
孫すまはよらむや尺や次日茶 親直
やふれや牡丹乃む書志しとて日
庭あつて皆ふも尺ゆら牡丹小重久

く草ハ是牡丹花あり 師親
花ありり回きり世のよ次日茶 一村
牡丹花よ短尺くくま人外日

芍薬

花地くまんまやくんまのよか 意礼
尺まやとんまやくんまのよか 正次
花乃尺人一尺屋くまりり小 茶友

了じやうとらきやくんくたむ足酒幸和
牡丹ひをるは若菜ハ口居くハ 意特

若楓

題所てよむやそ名もわつ楓 本友
むかひよんをきこふやあ楓 日

石楠花

山くういせりこすせ石楠花 ねる

卯花

雪月花一夜よ見する卯本ハ 貞徳
卯花いさくうそま月うら 日
鳥よハ似ぬうれむそ 隆徳 日
盛り足て横をせちやうと卯本 本友
卯花ハ庭よりりま白砂ハ 休角

成寺あはく

卯むを世とて一もつやと具足 正並
寅乃時も先卯むハ見相ふをれ
未白よ浪もつふ木の根うか 政並
申うら花ようふたれ行りふ 宗留

葵

卯をそと名をえつらつら葵

む乃えんけきそふらつらあひ成あ
おのまうとてむ葵けつらと一 宗交
なよむさす 眠う一ああひ成 宗朋

柳

柳あはましくひあうつらまひ成

珠花

あてふあまききほりた花の露 叙を
一かりあつやままりた花枝 叙光
数おほくはくやま鞠乃むの庭 正
上まきうままりよからる珠の糸 幸和
交くまおとんは乃てまりか宗福
ふままりよあまらぬ新たて来一村

紫陽草

あめくさ名もあらしむ露も松

橘

あらしむハ思ひきききせぬ白ハ
まはる人乃おをきをたぐく
あま人もあらし花氏たぐくハ身直
門前も市も立む乃あらしハ日

青靱と名よ立花乃山初ハ日
ふら花ハ世よめけ野々白ハ日
咲乱して暇立花やうとうり 花時
来鳴ぬハ暇ふらむやほときた 弘政
有子と古やひと常世花 近頼
橘まうこん染るる冬もく風 親重
ふら花乃本花てのむや出清酒 幸和

桐子

門を野んらんや桐子れむらり 貞徳
友乃日よむさねく咲や 子む日
花の本や海もふよかんーれ本 本友

郭一云

名子せハ氏やふらむ花のま
寺あ〜

ともりのよぢやあけこふ時を
 竹の子うおやふりりなる部云
 禪は似ぬ耳はくすのや子親
 去んで心は乃山路なるぬ時を
 本音がけたうもくする部云
 身徳
 けふは下もれ業うはくきた日
 秘密するぢや真言部云日
 うきまぐや醫師れ富乃時を日

本さるそふよあけこふとき日
 うきまぐの井は名はくぬ子親日
 と衣るらむもくはくやぬとき日
 猿轡とめくはくはく部云日
 友さげらつてやえくをき日
 樂よ世をわらうぬ部云日
 賣うりうふまぬのぬとき日
 きたたさめくはくはく時を日

おしし者ハ多高生テ郭云日
 吾ハ此宿ヲ考ニセヨ時多 徳元
 侍也ハ生一見ウク乃子親日
 あきまひウ定孫も多き郭云日
 うのそふ時ハ孫トウ也魏 甚可
 叔啼止る子よまうりれ蜀魏 日
 子親ハ名もくハ生ウるハ小 体南
 奥山よらんせいまうり郭一云 体音

一都ハ名一とやとんがきハ 親重
 名ヲ世ハ名字も多入よ郭云 日
 かげもとまのりハ考爾多 日
 名付生一虹あるそれ郭云 正重
 名の建もを及乃耳ウ時多 了佐
 回ていしくまきやいや子親 日
 子ハ親ハ名をや然らなれまきハ 友友
 かまりまきた被まうり時の名 日

宗神ハ何乃本考そ郭云之家
涇繁像るれよんせんや時多き獨
子規なるハリ〜〜雀うか日
皆乃代而くハわけけ郭云安利
山彦をや子よとわたり時多利房
るいさそ〜よにとゆりまけ子規成あ
何迷きうん伽路の初考と郭云皆結
名まふりり柳是ハ能〜きん 良芸

連ふせよんや日よる〜郭云良徳
藤原よまきうせんおり時多長昌
地獄車にさらか〜るげ子規を一
そ〜とま〜く〜年〜る時多曰
天乃戸やあよ〜知〜く郭云利法
侍〜て〜知〜〜き〜ん〜像〜は 元卿
耳たひ〜く〜わ〜き〜つ〜や郭云西友
田〜ま〜〜〜音〜歌〜ら〜り〜子規 廣重

我朝乃鶴鶴やま玉のくまに
むらやぢうれ典業のくまに
常乃佳子くはら海くまに
とのくまにまはるくまに
名はらぬ下子乃まふり
候氣するや卯花のくまに
待人をけんかふるや郭云
洲子をもきうくまに

友乃日はは成と名はらぬ
まはるくまに
中きくまに
花のくまに
名はらぬくまに

堂

友中よ尻乃火を呼せ能堂

藤の葉の凡や管は火吹竹
 草薺葉は竹乃管は紙燭か
 去布麻川乃の火の管は
 子け屍たてくぬ管やまもろ
 宇治川て火花をちるは管か
 高野山谷は管もひちりか
 我やく管乃屍やまあやま
 管火やあつとととととと
 眞徳

管火の那うはすあやと
 意乃火う枕巻葉よとと
 風よちるわらハ波乃花火
 花管竹より出るハ花火
 若の尾の火巾と足進ハ管
 少くはし火はあまーる
 管火をひらふはくよけ
 管火ハ川にせるのや
 孝睦

初露ハ〜菅火杖志ア〜水成
 飛菅ニ止ヨルハ川邊ニ新
 水と火の相付もよき菅の風
 見〜竹と木光れ玉ハ菅の節
 菅火を煮〜炭とるハ初ハ
 火乃子やや〜教〜飛菅 政順
 猿よまげぬ菅ハ尻乃あるカ 幸和
 こころ海や尻よ火〜ハ竹菅 曰

竹乃子杖火ま〜す〜ハ菅 在成
 菅の火やふ〜げ〜んぬれ足 曰
 狐火よかりて〜く〜菅の火 吉厚
 火を〜と〜んゆ〜ハ字路乃菅ハ 親を
 菅火ハ玉その前乃〜り〜る 曰
 まで〜〜と〜るや菅ハ 無部 曰
 かり火も〜〜るも光源氏ハ 曰
 川は〜よ〜る龍火ハ菅ハ 曰

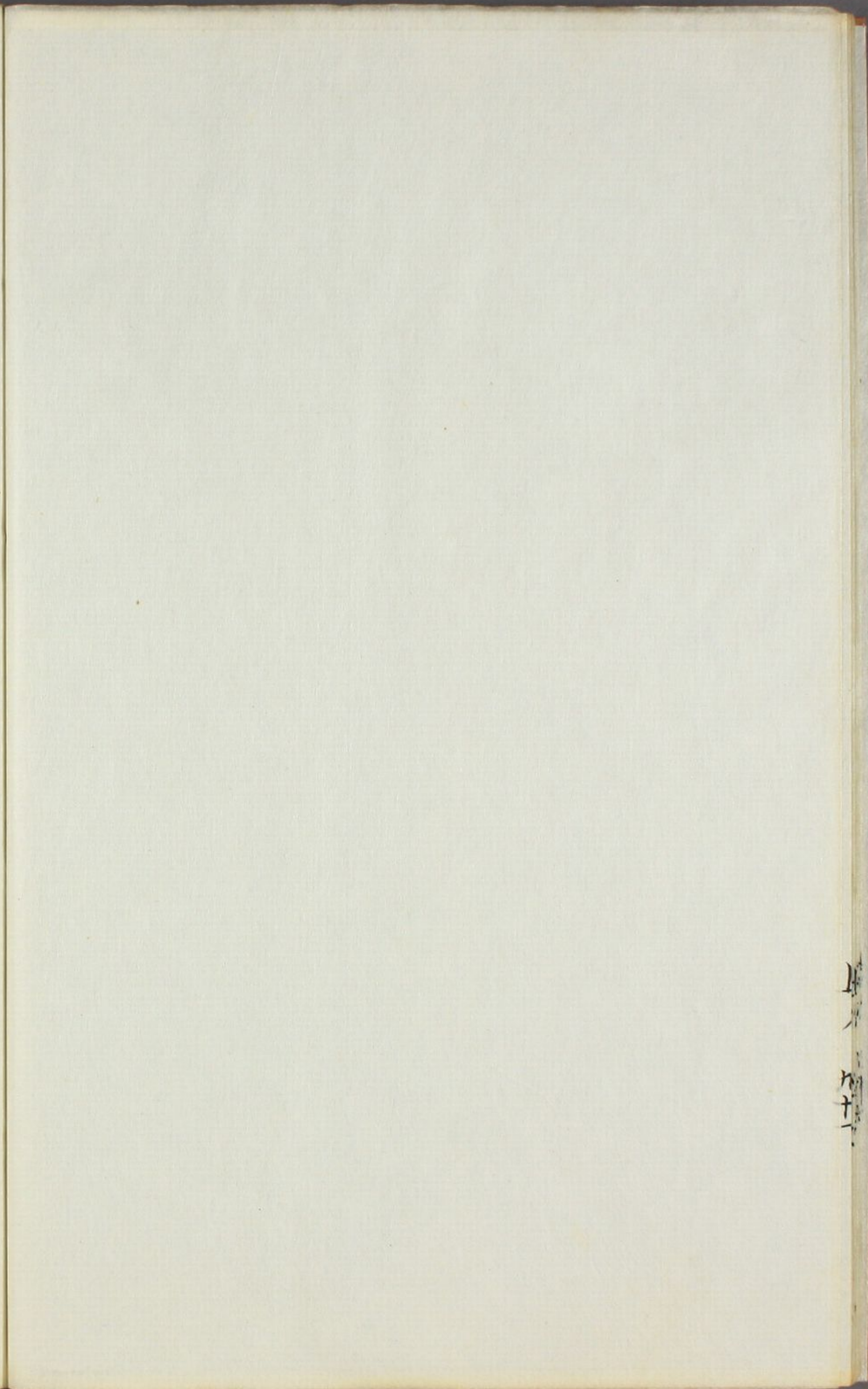
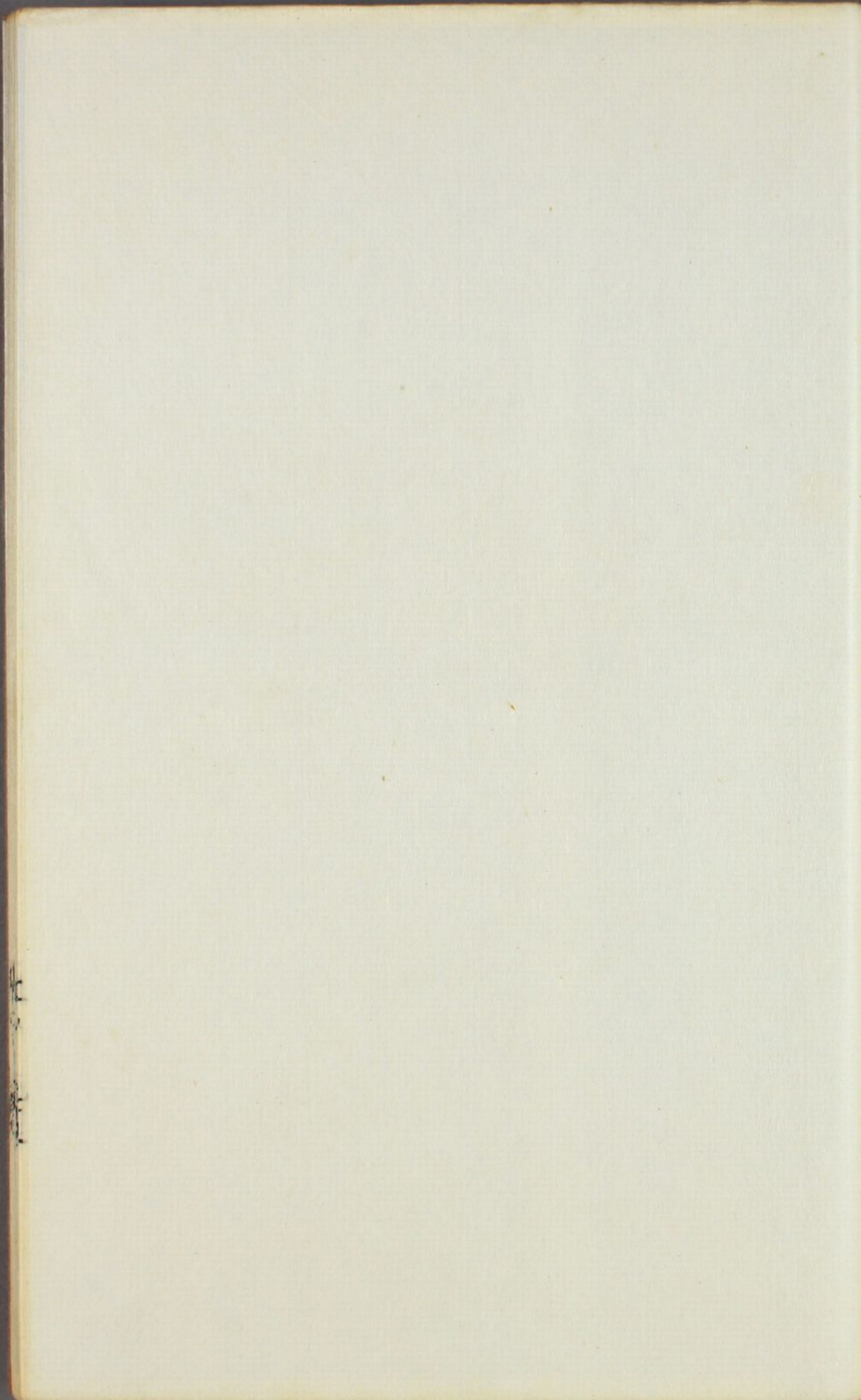
よるひるも玉のあよよふ堂日
田虫といをくろ火新の飛堂一正
史とよの一人をそん堂か 意次
楊雄乃灯明なれや飛のる 意次
こころよ扇乃芝よ飛堂日
のろこいれ慶廻り玉の飛堂日
堂火てあてこんせよまんたやと日
我とわつ火よとんて入堂のる 宗朋

7
堂火や平為院乃万灯の舞
那中よいあつて堂れよ火の宗系
堂火ハ川瀬をいよあかりか 吉久
火よ志とかくやまのつ飛堂日
水よ繪をうつま堂や飛のり 意次
火袋ハ紙よいよと一堂のふ 意次
堂と川ハあ火れをよか 意次
堂火やまをえら岐乃あけあり 政房

かきあがりよむとまうらの管かき改
管火いまりやけ猿たぐわか宗前

取付夜告

取付もくろぬるーの猿
取付やぬよりよころの猿の家
ま乃おと秋たおよるの管取付
とくよるの取付火たるありり



我と方とをくくひりやな虫 其可
蚊を火に思はまことせんけりか 月
なれぬハ蚊乃付ぢり乃寝るか 虫
名をれとぞにぬる時の蚊帳を 月
帳のくる糸ハけりてう蚊帳を 親直
蚊乃くまのゆゆをちやうにむか 宗直
蚊はぢり乃りやめく庭や相立 宗直
な乃なれやハかきうす 一村

水鷄

料理して誰くわめのとまき汁飲之
うたげくわめの汁は海う切宗系
川浪乃くくい揚乃水鷄水日
七くさあわねとなく水鷄水出後
その名はたき扱おめ鷄水孝睦

麻子

夫よあさり血なるくくや麻子宗年
将人よおれぬく町や者麻子親を
夕へく武彦野のや麻子ま正
富士乃将やまとうちと麻子一村

飯

うぬきり飯より出くくく小
水父よそめくくくや飯のくく高徳

鮎子すもよみしれよせよ鮎の魚 幸和
ましくひとり鮎もあみさけりふか日
鮎よりもくも蓼多酢の毒は一村

梅子

梅子、虎と射る矢やふれ竹
あきくみ喉とけかふや見才 貞徳
梅子ればかたははえさむらふか日

さうらめの川原梅子南無地花日
梅子ハ夕ウ初メ無あかちか色一
花文のこころつーきかけ繪紙忠海
るそこの心をたろくはらりげか
梅よれ花乃赤まハ日まけか光を
あきくみ喉とけかふや見才 貞徳
ましくひとり鮎もあみさけりふか日

石竹

石竹の葉はさくさくして見ると石竹の葉は
咲花乃多そむく石竹乃竹 葉を
名よおひくく石竹の筒常盧
志りれく心氣をせきりく石竹葉を
見ると人を待たせきりく乃を島 宗祐
石竹の白てりを花れ時ぬか 一村

百合草

花ましくもゆりましく花の葉は
さくさくして見るとゆり花の葉は
見ると花の葉は又花をゆり花の
花ゆりましく花の葉は花の葉は
鬼ゆりましく花の葉は花の葉は
花乃花あまきや鬼花の花ゆり 親を
鬼百合まあふ鬼花の花ゆり 親を

ゆりかぜとともんかのこり花堂 松院
日はくぬ鬼ゆりまねやま隈 近周
あまもや心んくー博多百合 貞健
まど垣よもこまあやほはゆり花 頼子
お根をとり時地震ゆり花
お根をとり地震ゆり花 一打

常一交

わりあらもせよところだけ花畠 貞徳
まはのよせよところの花園 威一

風仙花

わあ〜いゝるる思てわうせん花

鉄線花

磁石よ極くもんくや鉄線花

鉄線の花史は花乃たくありて
をのうけさるるかひもれや鉄線 幸和

茨子花

こぼろろ露かみのこもり花 親を

元穂草

うつ不草中にもしるや矢ふ草一村

高蒲

もふらとハ下地乃志やうふか
下地して人をあやめの首供は
朝よき高蒲は志はひそく
あさゆめをぬのくれやあやめ
高蒲とも水まきとる川を
あつたやれ朝乃あやめや
下地や高蒲乃よ系よのこ

朝よふすききうふかきりえか縁の
又乃きく尾のこくまらや高蒲歩安和
軒はれ上懸けくるまやうふ小字是
りる尾のれあきまよとら高蒲小字富

又月夜

又月夜大海去るや井乃陸 貞徳

又月夜乃そや油燈はともか山日
又月夜いふきさるあ山りる一日
又月夜や山鳥乃尾城さる天 孝文
又月夜ハ高蒲刀れ砥水うか 親を
又月夜乃雲ハ月日乃あふ戸外 成を
又月夜や海竹とる小篠原 貞徳
又月夜ハ水の出た乃あふりか 言文
又月夜や雲はと神乃あふひ汁 日

又月ぬハ道折馬ハ海ノうカを
 仲檀乃上ノりぬやとあこせ日
 又月ぬや下果今つとてを此海日
 又月ぬ乃うらハく日ハ一取ハを成
 又月ぬいとも尺ハるるまらハ常久
 又月ぬハ月ハ日ハ尺ハる暦ハ礼宗珠
 又月ぬハ竹乃子た乃うふ湯ハ親並
 又月ぬ乃や月日ハぬき親並

梅五

梅乃ぬとあうするをや太庚嶺
 高蒲配もまらや新此梅ぬ 貞徳
 山此神やハ神とるぬ梅乃ぬ 長吉
 庭よまら露ハぬぬ梅此ぬ 親並
 之神美り又ぬありまら
 之ハ日ハありやまらぬ梅乃ぬ 親並

梅乃西は笠やきこれればあり 幸和
竹の子乃くやめくさうり梅は西 知親
氷乃けよとのまきとらや梅乃西 吉厚
惟子もぬまがく白へむめの西 基宝

早苗

とらよ先汗かれ出る田草よる 辰夜
足引乃山田乃苗や中凡や 宗年

さととめと田草あつそあ睦か 親を
西くし乃あよむ小田は睦か 彦孫
腰おれいあつ田草乃すくか 巻れ

若竹

のひあつ進竹は子もれせいと
竹乃子ハ皆土性乃むまれ水
あつさよやめく竹は子乃く衣

かえり皆竹乃子たれうふ志か
ぬりぬまいみちか竹乃子たか 貞徳
竹の子さるらく数そ皮うあ 日
まゝ乃子竹乃一もん知じか 徳元
竹乃子た友をさすすか教諭 親を
とまこ竹の中お出らうやていぬ 日
志やけまりとおゆる竹たむすか 日
竹乃子にまゝ一ちあしうまゝのまか 日

徳辨階下

竹乃子たれうふ志か竹せ徳 日
ふう竹やそら子たれ徳くすり 宗仁
垣乃そとにそら竹は孫子か 利徳
弁た子乃あうらゝまゝちうけか 近周
屋せ藪ハ竹の子こゝむけりか 孝睦
竹乃子たむらうくもちうや兄才 忠一
それくよせとくれ竹た子たか 感一

あやふれゆりめたむるげりり小長昌
隣よりくれあけ子の孫より小政述
竹乃子にありをゆるるるまき一
まゆれ出るる竹乃子たふ成あ
あけ子の地をせぬくや敷ちり一正
良業う昔竹まげら友乃友をね
おひらうんちく海竹乃二子小長運
はまもくも虎あけあけ子たふ親光

竹乃子たけおやおやよに抱か幸和
ふまゝああけ子たもゆけか曰
あけ子のおやよもまれあそひひ曰
竹の子たうおあるひう梅のぬか照見
おや竹乃子たよゆつるあよ小宗祐
あけ子のおやよあるきよりひか宗内
あけ子をもくくハ竹乃子たふふ之直
あて子にまゝうひめらや園あ常久

上
巻

美竹ハ根も葉も似り一敷力 知親
買今よくれ竹の子其孫きりか 竜
かろふんよお十一本志らくれ子 竜成
子乃由來ぬ井ハ腎虚子あり 宗百
美竹乃乃少 杉乃乃まじやハ 正之
井女子をいよ附よやさくめり 家次
着竹乃よりひや八九七十一二 厚成
少一由と申よま竹女子ハ 一村

美梅

枝なうし美梅はげや坪の内 孝彦
花乃兄も世でのうれてや梅師 氏彦
梅ハ実にはいしとあぬやさくめり 日

梅師

皇子とい是そ難皮乃梅はまの 親彦
在のうてよめりりてくるん梅ハ 親彦

柘榴

赤きよりも此尺ゆりや柘榴花 孝室
史ととり赤きも尺すの柘榴花 長運

梔子

はるよあまのさかひのさかひに 徳元
はるよあまのさかひのさかひに 親直
はるよあまのさかひのさかひに 幸和

友

友よ

むくけりありあうせんまは経うか
友やせとせぬあうのり子たうま 信直
中くささ灯巻まはあうりか 忠直
下野と花も受候乃るあま 親直
親よしを孝行まうんあうの子 宗奇
花乃るあまのさかひのさかひに 忠海
浪れ紋蹴入ひ乃るまはあま 宗直

7 7

ひろくかよ咲もせとらぬ午時花水長運
もんとくろ名付る花うけ建草 古運
志乃子孝茂るい交けさふれ 良冒
池水よひ一花ひもやうく思ひ一村
交まそい古草とやい所く日

乃雛

とくひともをひろけさふれ

唐繪もや似らめいひた花乃久親を
花もいりひくを平たれんひ政公

美人草

尺女いつ是花乃非ゆり美人草 良政
花く乃歌とやする美人草 吉久
咲花れありいふとら美人草 宗祐
よの女乃神とやする美人草 日

花や先人乃らきんみん草 忠海

夕顔

毎えうねよ咲夕つかやれえさむ 静玄
夕顔をもちふりき花乃夜 正吉
夕顔の汗の垣わのしふれ 宗和
夕顔乃花さるれや垣乃穴 幸和
夕顔やよろふ露れむう 親を

麻

あさおきよ綾う友そのかせまか 徳元

帷子

かきくもは又六月たさるるま
汗をとりよのき帷子やきふ深 幸和
帷子ときぬ乃ららをう 政倫

かゝひらね地ふもまふはひの毛 貞徳
東のうゑの行とく
うゑひら乃黒や名を地衣は布一村

瓜 ササ子小角豆

いゝ夜も口はねや瓜車切
垣よと義のさやまひのやまの瓜
昨瓜乃子とまゝくはるやうあ紐

あゝ然あゝ乃十八さけりか
垣よまゝひはらまゝりても本瓜は徳元
あゝ中よまゝ葉や瓜乃一うら日
鴨焼や茄子るれもとり者日
後菱判とあゝへま合まゝく瓜 貞徳
氷従ひえぬる物や砂糖瓜 日
日よまゝふや物はまゝり瓜茄子 茶友
回乃まゝにぬり種あゝ小瓜 親を

昨風乃ほるやらまうちあき髪日
 孫妻あらまや官をまうくハ風感一
 唐風も照日乃本とゆり水をれ
 善風や上戸れ教をひ中物宗由
 多んとるれ被乃筒たあま風幸和
 古風よめ風とるまうちけか日
 くのまりや先も式乃さけ物日
 陣あうてまはるすひ乃長市ハ家道

善風よめ風とるまうちけか日
 さりよりあまらまらきらや小娘風長運
 女替々張をうりり乃こくハ風一村
 銀作もあまらぬハ風たるうこハ日

蓮

鼻れ穴さす殺少のあ蓮う風
 水菘とつふ名や池乃蓮花集を女

花乃多もろく染付やんらさか 安隆
しゆれてもよき蓮乃花瓶水 心健

追善なり

赤うらう人むまじし蓮た露 色一
水燈よりこ祥をすそらよか 幸和
やうえを吹く花乃る蓮うら 忠海
先づかすまらむれ白ひま 良云
蓮乃むよたるい併り露の玉一村

氷室

尺く涼しひむらや出るところん
氷室山交ハ片くゆきまろけ 盛沈
山にらや氷室の氷餅 氏を

祇園會

引まろき長刀鉾やゑ車 貞徳
月鉾を疎くゆら扇乃た日

1
慈童名や菊水并に鞆鼓の
ひ久縄は珠露をせよ故下并曰
山并に祇園を平に久この山
弓柄ハ八幡山に終る固る長
祇園今ハ終るとたのまぬ人抱か

2
夜月

あきさつる月かう家月此菜うな 喜可

1
2
夜月のやを道あつり夜月 休音
月影ハ扇なり乃川流ふ 親を
みくまはあつるや月おろき 幸和

彈

吾れ中てぬけおろりや寝たき 貞徳
夜きくあましよ鳴やせこふ 純日
山乃祇園耳乃病り輕の起る 日

止り 百十一

長きつひのやまの蟬乃初日
 恙なくや蟬は衣は五月の
 ぬけりともるんやあけく蟬の日
 白面てせんくともるや蟬衣休音
 夏は都乃外やえよぬぬ蟬の音 歌
 我ををあはさくひくや蟬は琴日
 業平うまよむ蟬のうら衣日
 昔とや程さくも破はれく衣 古原

和州みく

うら衣蟬もかふるや三橋れ枝 正也
 ようへをはのこぬや蟬の薄衣 氏重
 蟬の音やまの下岡はさくら 意
 啼蟬やあけぬらきこもかふる衣 幸和

白雨

夕もあつたはなはまの朝な

上ノ百十二

夕ぐらハハハハ天國乃なりれうか 親を
 夕ぐらや虹とまのまゝめいの物 曰
 かゝらゝゝゝ夕立やあーまこき 曰
 夕ぐらとてうらん昔刀者當うか 親之
 夕ぐられややゝそりゝる虹の光 何葉
 夕ぐらハハ虹の銀打雲井ハ 何治
 夕ぐらとておいうけらやゝま芝り 宗俊
 晴祿や夕立雲れよせ大報 長吉

残ありまます夕ぐられゝるゝか 正心
 夕ぐら乃まのさ合うゝかえり 正信
 夕ぐら~~ハ~~ぢや夕ぐら~~ハ~~友亦立 氏を
 夕ぐらハ雲れゝゝまらきまか 吉久
 夕ぐらとてうけて入ぬ^やあり^ハ 二番
 夕ぐら~~ハ~~あゝ夕ぐらに見目釘 在れ
 夕ぐられれ~~ハ~~を打いあゝ~~ハ~~ 幸和
 夕ぐら乃とまあけるりや日梵 曰

七言古

夕なぬらひまされおまわりの日
 夕なぬらむのぢあまふらうの店か日
 夕なぬらにさうふあむたけらさか常久
 夕なぬらに皆けさかけて寺の傳一村
 夕なぬらぬれおあやめぬ登日

土のくく形とく

夕なぬら乃あま六くかろう田か日
 夕なぬらよき夕なぬらのぬ屋とり日

夕なぬらやかり出さわれ山乃腰日
 夕なぬらにうらうらぬら鶴田遊日

扇

山風を腰よさく扇くる
 吹風や天津し乃袖あふまき
 扇乃繪を書やぬとの舞扇
 お風さをしらぬまら地乃扇か

馬よれせ折ハ武老給乃扇ハ 貞徳
 涼ハもまひろくハ折ハ扇ハ 曰
 風乃ハひましくハ折ハ扇ハ 曰
 涼ハもまひろくハ折ハ扇ハ 曰
 用次ハ折ハ扇ハ出ハ折ハ扇ハ 喜可
 吹風ハもまひろくハ折ハ扇ハ 親孝
 大水ハ網ハ扇ハ折ハ扇ハ 曰
 鳳凰乃折ハ扇ハ出ハ扇ハ 親孝

折ハ扇ハもまひろくハ折ハ扇ハ 曰
 涼ハもまひろくハ折ハ扇ハ 曰
 風乃ハひましくハ折ハ扇ハ 曰
 涼ハもまひろくハ折ハ扇ハ 曰
 用次ハ折ハ扇ハ出ハ折ハ扇ハ 喜可
 吹風ハもまひろくハ折ハ扇ハ 親孝
 大水ハ網ハ扇ハ折ハ扇ハ 曰
 鳳凰乃折ハ扇ハ出ハ扇ハ 親孝

あつゝもりのを折ぬる扇小丸皇
捨扇もそと涼一き袂小氏を
法人乃あせとあつゝや内の神
編云れ汗をあつゝや大内こ
風を扇てひそたひつゝ扇
涼一をあつゝ乃扇ふ永
ひあつゝは夕つゝのひつゝ宗
あつゝ日よあつゝや行ととつゝ園三

あつゝもりのを折ぬる扇小丸皇
あつゝもれ行まゝ扇ふ一
科をそと扇れつゝあつゝ永
骨おりてかちまけ八行扇切
立よつゝ八扇乃折けよ日おつゝ一

納涼

涼ささつゝく價やあつゝろ

清さハ庭のりひの園乃弁 長吉
 あつたや川邊はけふ扇細 家重
 折水よほえれいあつたさか 長可
 月つた雲乃夜や丁子深 無頼
 吾うらにの葉三つこれ文は 清親
 汗はくかきりわき出る泉うゑ 孝光

五のうゑのうゑ

刀さあせかくさや乃山踏く卯 徳元

大社よまきりてけつ時

親乃涼さやばね乃都 親重
 あけき日よまてなをうらや何孫随登 日
 あつたをよもさふも刀音萬介 同
 暑き日れ煙ハ富士乃黄うゑ 玄竹
 立うらハ大平の路よりとらと 老頼
 とも乃香やゆあまをさう琴 吉久
 山さうれいさハあつたのうゑハ宗元

五ノ八ノ四十六
東のこゝろ行とて

日乃新やともふあけこ乃文亦一村
みそ川をなふせまよの行もほし了九

白水

あはき日いあそもけあ〜のりか 水云

誓言新寺あ〜

〜の白あ〜とむす〜の泉志寺〜の幸和

浄板

一交やあみか月れあ〜と〜とひ 氏重
はの洗やあ〜こよあ〜もみえ〜 意礼
ひんか〜れ〜りあ〜を〜ま川 貞徳
足家人乃殺ひりや〜と〜と〜 日
神も〜けよあ〜洗川で〜と〜 日

雑友

揚弓いあゝらぬおら夜こら
短敷いあけてあゝらまゝこら
祿入り乃経えん友れおのるか盛産

卯月の日薩併乃んを

併りやいこふせ尾れり下し一之

聖政乃あゝらぬけりり所焼す 貞徳

明石あゝ

短敷いあゝらぬけりり所焼す 貞徳

酒をり乃夜あゝ

さあゝらぬけりり所焼す 貞徳
朝倉やあゝの丸けりり所焼す 貞徳
月も尺くさむせてや笑ハ喜山椒 幸和
京流う目とりり所焼す 貞徳
ふあゝらぬけりり所焼す 貞徳
天人も去用り せよ雲乃神日
武士乃おや長刀青藜散徳元

かきくよいれをそらるる妻あまか色緒
卯月よハ葉やうこのひくひと三連

八瀬あ〜く

友屋せ乃忠経に入らぬ湯水吉久
はまのひとも夜夜るりりり百目紅長運
あはさ〜や出る深心おせが妹を成
あふぬよ美をひ〜くやこ松茸 曰
く海松乃香〜んさの志け正か忠海

さあ〜〜れめはう〜まのあせが日

賀茂乃く〜るんよま〜り

一時的んれよこ〜りあを

今かよ將其名を〜れげいりか思是

双去や〜してけり〜又六月一村

東へ行〜く

短歌よな〜く〜着を〜海小日

大磯あ〜く

水口其次子
中井逸之
26

昭和九年七月
水口其次子
中井逸之

